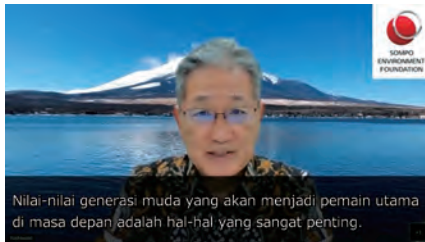


1 インドネシア版CSOラーニング制度第4期の修了式を開催しました

SOMPO環境財団ではインドネシアの大学生・大学院生を現地のNGOにインターン派遣する、「NGOラーニング制度」を2019年からジャカルタ近郊で実施しています。10月12日、第4期生となる修了生20名の修了式をジャカルタのAYANA MIDPLAZAで開催しました。

3年ぶりの対面開催ということで、修了生、派遣先NGO、現地事務局を務める日本環境教育フォーラム（JEEF）、SOMPOインドネシア（SII）が一堂に会し、盛大に修了生を送り出しました。また、オンラインを繋いだハイブリッド開催とすることで、私たち環境財団も日本から喜びを共にすることができました。



西脇専務理事祝辞

修了式では、環境財団の西脇専務理事から「成長著しいインドネシアで、若い世代のリーダーとして環境課題の解決に貢献してほしい」と激励を送りました。あわせて、インドネシア環境林業省のJo局長、

SIIのEric CEOからも、国の未来を担う若者世代への期待のメッセージが寄せられました。これらの言葉を受け、修了生も「このプログラムで皆さんに蒔いていただいた種を、今後の活動で芽吹かせていきたい」と決意を新たにしていました。

インドネシアは急速な経済発展を遂げる一方で、ごみ問題や生態系破壊の問題が社会に大きな影を落としており、身に迫る危機として環境問題解決の必要性が叫ばれています。こうした問題を自ら解決しようというユースを応援すべく、環境財団では次年度以降も本制度による環境人材育成を継続していきます。



修了式の様子

2 2022年度環境保全プロジェクト助成先を取材

SOMPO環境財団では、環境団体の皆さんが行う環境保全プロジェクトがより充実したものとなるよう、「環境保全プロジェクト助成」を実施しています。2022年度も多くのご応募をいただいた中から、選考委員会を経て10件の助成先が決定しました。

今回は、助成先に選定されたNPO法人藤沢グリーンスタッフの会（以下FGS）・事務局の福田廣さんに、活動の内容や助成金の使途などをお聞きしました。

●貴団体はどのような団体ですか？ （活動地域や活動目的など）

FGSは2002年創立の民間ボランティア集団（現在正会員数150名）です。活動地域は藤沢市及びその周辺の里山・緑地で、生物多様性を考えながら自然環境の保全を図ると共に、一般市民に緑の大切さを広め、子供たちに豊かな自然を残すことを目的にしています。

●現在はどのような活動に取り組んでいますか？

現在取り組んでいる主な事業は次のとおりです。

- ・市保有23か所の里山・緑地等の下草刈り・枝払い等を行う緑地保全活動
- ・市民ボランティアを養成する里山保全ボランティア養成講座（現在22期生）の開催
- ・自然観察や木や竹を使ったクラフトを通じてみどりの大切さを広める普及啓発活動
- ・生物多様性へ向けた新たな取り組みとして、藤沢市にある3大谷戸（川名清水谷戸・石川丸山谷戸・遠藤笹久保谷戸）の1つである川名清水谷戸での調査活動

●当財団の助成金はどのように活用される予定ですか？

川名清水谷戸で2021年度より植生調査、水生生物調査を実施していますが、水生生物調査ではこれまでの調査で数種類の希少な水生生物の生存が確認されています。今回受領した助成金は川名清水谷戸における生物インベントリ（生物種リスト）を作成する為、近年新たな生物調査手法として注目を集めている「環境DNA」調査に必要な試薬や分析費用等に充当する予定です。



川名清水谷戸水生生物の調査風景



藤沢グリーンスタッフの会の皆さん

活動場所である川名清水谷戸は藤沢駅からもほど近いエリアにありながら、昔ながらの生態系を残す貴重な自然環境だそうです。行政と連携した長年に渡る地道な保全活動や、先進技術を取り入れた意欲的な調査活動は選考委員にも高い評価を受けていました。助成金を活用いただいた調査結果をお聞きするのを楽しみにしています。福田さん、インタビューへのご協力ありがとうございました！

Question

- ①. ラーニング生はどのような業務をしていますか？または、どのような業務をする予定ですか？
- ②. ラーニング生にはどのような期待をしていますか？
- ③. CSOラーニング制度についてお考えをお聞かせください。

01

認定NPO法人環境文明21

藤村 コノア 様



A1

会議・研修事業・部会活動等への参加と議事録等の作成、外部見学会（今年度は国立環境研究所）の企画準備と報告書の作成、会報のチェックと執筆、経営者環境力事業のサポートなどに加え、若者への広報・普及手段についての調査と提案をお願いしています。

A2

一市民として発信し行動する力をつけてほしいと期待しています。また欧米に比べてNPO/NGOへの理解が薄い日本で、どうすれば活動を周知できるか、共に活動してくれる仲間を増やせるかを共に考えインターン終了後もそのマインドを持ち続けてほしいと思います。

A3

当会もすでに20名以上のインターン生を受け入れてきましたが、個性の違うインターン生の成長と変化を、8か月という短い期間でも感じることができるのは大きな喜びであり、活力にもなっています。またインターン後も各々の職場で、インターン時代に学んだことを活かし実践につなげている方もいて頼もしい限りです。こうした人材の育成に関わることもNPOの一つの使命だと考えており、そうした機会を提供してくれるこの制度に感謝しています。

02

公益財団法人アジア保健研修所(AHI)

谷村 尚子 様



A1

AHIは、誰もが持てる力を発揮して参加できる社会を目指して行動する人を育てることを事業としています。目指す社会の達成を阻害するさまざまな課題を解決する答えはひとつではありません。ラーニング生は、参加型研修プログラムやイベント、支援者との関係づくりなどの「学び合う場づくり」事業において、時には運営サポートとして、また時には参加者として関わります。その過程での自分の行動や意識の変化を見つめる作業も丁寧にしていきます。

A2

AHIでのインターン活動では、自分自身の学びを自分でプロデュースしていく!というぐらいの気持ちで取り組んでもらいたいと思っています。「学び合う場」は、いろいろな人を巻き込んで多様性を膨らませることで、より豊かなものになります。その中で自分が考えることや感じることにきちんと向かい合える気持ちをもって臨むことが、さまざまな出会いを自分の変化や成長につなげていくことだと思います。

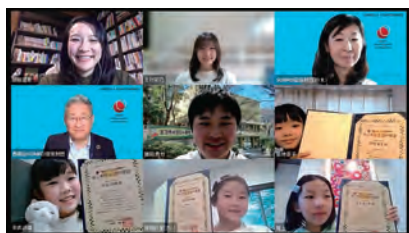
A3

目標を設定し、振り返りを繰り返し、ラーニング生といっしょに考えながらじっくり取り組める制度ですので、受け入れ団体にとっても気づきや学びの多い機会になっています。定例会で他のラーニング生同士の交流もでき刺激を受けたり応援しあったりすることも良い点だと思います。社会人になっても繋がり、学び合いを続ける仲間を見つけたいと思っています。

4

新宿区「みどりの小道」環境日記コンテストへの協賛

SOMPO環境財団では、東京都新宿区の小学生を対象とした「みどりの小道」環境日記コンテストに協賛しています。このコンテストは、「環境」をテーマに小学生一人ひとりが考えたこと、学んだこと、体験したことなどをまとめた日記（5週間以上記載）の中から、



表彰式の様子

優秀な作品を表彰するもので、12月に2022年度「SOMPO環境財団わくわくエコの環賞」を授賞した5名の表彰式と座談会をオンラインで開催しました。

今年度は過去最高となる1204件の応募があり、作品は、SDGsやエネルギー問題をはじめ、ロシアのウクライナ侵攻に関する記載やプラスチックを掘り下げた日記など、どれもレベルの高い作品ばかりで選考は大変でした！座談会では、家族でエコに取り組む工夫や、毎日、日記のテーマを見つける苦労やこれから取り組みたいことなどを披露いただきました。



受賞者中井さん

5

2022年度「市民のための環境公開講座」(全9回)を開催しました！

1993年から、公益社団法人日本環境教育フォーラム、損害保険ジャパン株式会社と共催している「市民のための環境公開講座」。市民と共に環境問題を理解し、それぞれの立場で具体的に行動することを目指しています。



田中陽希さん

30年目を迎えた今年度は「認識から行動へー地球の未来を考える9つの視点ー」を全体テーマとし、オンラインで開催しました。9回の講座には合計7000名を超える方に申し込みいただき、参加者からは「家族と一緒に参加でき、意見交

換を行っている」「地方から参加でき、最前線で活躍されている方の実感がこもった話がうかがえ、オンラインのよさを感じた」「録画で繰り返し見ることができて理解が深まる」などオンラインを有効に活用している声が多数寄せられました。



東京大学理事 石井菜穂子さん

各講義のダイジェストは環境財団ホームページで公開していますので、ぜひご覧ください。

